シラバス参照

タイトル「**2021年度危機管理学部(公開用_コロナ対策版)**」、フォルダ「**危機管理学部**」
シラバスの詳細は以下となります。

戻る

科目ナンバー	RMGT2601		
科目名	危機管理基礎演習Ｉ		
担当教員	川中　敬一		
対象学年	2年,3年,4年	開講学期	前期
曜日・時限	月２		
講義室	1202	単位区分	必
授業形態	演習	単位数	1
科目大分類	専門		
科目中分類	専門基幹		
科目小分類	専門統合・演習		
科目の位置付け（開発能力）	■ＤＰコード-学修のゴールを示すディプロマポリシーとの関連 ＤＰ１－Ｅ　〔学識・専門技能〕：　問題を探求し、状況を的確に把握・分析して、合理的な判断につなげられる地勢 ＤＰ３－Ｈ　〔論理的思考力・批判的思考力〕：　理路整然とした思考を備えつつ、偏りを排除するための内省をもって、問題・課題を合理的に解決することができる。 ＤＰ４－Ｆ　〔探求力・課題解決力〕：　問を設定し又は体系的に行うとともに、オープンエンドな問題・課題に答えるための方略をデザインし、検証し実行することができる。 ＤＰ４－Ｉ　〔理解力・分析力〕：　文章表現、数値データを適切に扱いつつ、情報の収集と取捨選択、分析と加工を有効かつ円欠に行い、課題の解決につなげることができる。 ＤＰ６－Ｋ　〔表現力・対話力〕：　文章及び口頭で、自らの考えを的確に表現し、他者に過不足なく伝達することができる。 ■ＣＲコード-学修を通じて開発するマインドセット・ナレッジ・スキルを示すコモンルーブリック（ＣＲ）との関連 Ｅ１　学識と専門技能（20%） Ｆ１　探求と論拠（20%） Ｆ２　課題解決（20%） Ｈ１　論理的思考（15%） Ｈ２　批判的思考（5%） Ｉ１　理解・分析と読解（5%） Ｋ１　ライティング・コミュニケーション（10%） Ｋ２　オーラル・コミュニケーション（5%）		
教員の実務経験	防衛省本省及び研究機関、並びに、自衛隊上級司令部幕僚、部隊指揮官、防衛大学校教官等勤務、そして、周辺諸国の国家・軍事戦略の研究と対謀略活動を含む情報活動を加えて３０余年勤務してきました。この職務上の経験を通じて、国際関係においては、文化、経済と軍事とが密接に絡み合い、それが政治活動の原動力となっている現実を痛感しました。こうした経験に基づいて、日本ではあまり顧みられない軍事を視野に入れたトータル・グローバリズムを考えていきたいと思います。（第６、７、１４及び１５回）		
成績ターゲット区分	■成績ターゲット　能力開発の目標ステージとの対応 ２　進行期　～　３　発展期		
科目概要・キーワード	危機管理の研究領域の中から、学生個人がそれぞれ１つの研究テーマを構築するために必要な、危機管理に関する基礎的な演習を行います。危機管理学の専門基幹科目における法学系科目や、専門展開科目における災害マネジメント領域、パブリックセキュリティ領域、グローバルセキュリティ、情報セキュリティの４領域の危機管理系科目を担当する教員が担当し、それぞれの研究領域における研究の手法について指導します。個々での学びが、３年次以降のゼミナールや危機管理特殊研究活動へとつながっていきます。本科目では、専門的研究テーマ決定		

	や研究計画の検討を中心に行います。授業形態は演習により行います。なお，授業の一部を補完するため，あるいは代替するためにオンライン授業取り入れる場合があります。開講曜日・時限に授業動画配信及び課題等を提示します。 ■キーワード；　多面的観察、自己と他者、創造力、世界と日本
授業の趣旨	■副題 　第２次世界大戦終結から約半世紀間、日本も包摂した世界的戦略構造を規律した冷戦に関する基本的潮流を学びます。この学びを通じて、眼前の各種社会現象の淵源と経緯を正確に認識し、各種社会現象に潜在する危機の性質、本質及び方向性を看破できる危機管理の基盤たる情報収集及び彼我の分析・評価能力を養いましょう。 ■授業の目的 　自己を取り巻く各種社会現象の歴史的経緯を起点として、その可変部分と不変部分とを峻別して正確な情勢判断ができる尺度を構築する手法を修得します。その際、各主体の自然環境、思想、文化等の環境要素を考察に加えることにより、より本質的で公平な多面的観察能力を養います。こうしたプロセスをもって、危機管理における情報活動と事態に対する決断・対処という２大活動を適切に実行する基本的素養を涵養します。 ■授業のポイント 　本授業では、東西冷戦史を題材として扱います。東西冷戦が第２次世界大戦後の国際社会を相当程度規定したことは、学生諸氏にとっても周知の史実でしょう。そして、今日、皆さんの耳目に触れる各社会現象の多くが、冷戦史の延長に位置していると見なせます。学生諸氏が関心を寄せ、解決に取り組もうとする危機的事象を、歴史的尺度に照らしながら、同時に、各主体（アクター）の価値観や理念を交えることにより、１つの事象を継続的かつ多面的に捉えることに留意します。その基盤のうえに、当該危機的事象における自己の定位を把握し、最適の対応行動を採れる思考基盤の修得を目指します。そのため、本授業では、危機管理に関する歴史的探求を起点とした研究テーマの探求、研究手法の会得、研究成果の発表の各プロセスを通じて、学生諸氏が正確かつ公平な知識の基盤に立脚して、既成概念に束縛されない“独創力”を涵養し、その成果を文字と口頭で表現することが、本授業の第一義的な目的となります。
総合到達目標	■学生は、冷戦史の概要を米中２ヶ国における戦略思想の側面から説明し、この説明に立脚して今日の懸案事項たる「中国の海洋進出」を学識として表現することができる。 (1)学生は、今日における世界情勢の直接的淵源たる冷戦構造の本質を多面的に考察し説明できる。 (2)学生は、今日における中国及びの動向の目的と意図を看破し説明できる。 ■学生は、旺盛な関心をもって社会における重要な危機的問題を探求し、これを多面的な方向から分析・評価しとともに、その成果を適切に表現する独創力を修得することができる。 　・学生は、眼前で生起している国内外情勢の方向性を妥当性を担保して予測することができる。
成績評価方法	■課題レポート３回（60%）：　適用ルーブリック　Ｅ１・Ｆ１・Ｆ２・Ｈ１・Ｈ２・Ｉ１・Ｋ１ （評価の観点）第１に、教科書及び配布プリントの骨幹的知識を習得しているかを評価します。第２に、教科書、配布プリント及び授業における教員によるコメントを駆使して、提示課題に対して独創的な考察を展開しているかを評価します。第３に、習得した知識と独創的考察の結果を文字により他者に伝達できているかを評価します。 （フィードバックの方法）提出レポートに対する教員によるコメントをもって、冷戦に関する知識と捉え方の習得、今日的事象との関連に対する考察を多面的に深めるための参考を提供します。 ■学生間討議（40%）：適用ルーブリック　Ｈ１・Ｈ２・Ｋ１・Ｋ２ （評価の観点）第１に、グループ内の真摯な議論を経た発表資料を総員で作成したかを評価します。第２に、発表に当たり十分な補足資料を準備したかを評価します。第３に、他グループの適切なる質疑ないし批判に対して、自グループの見解に固執することなく、これを修正する柔軟性を発揮できるかを評価します。 （フィードバックの方法）各グループの発表に対する教員のコメントをもって、当該課題に関する認識の再検討と、それを最終レポートに反映するための参考を提供します。
履修条件	特にありません。
履修上の注意点	日本においては、冷戦構造を理解するに当たり、アメリカ発信情報への盲信を起点とし、それら情報を日本時的主観に基づき解釈する傾向があります。また、眼前の情勢の潮流を認識するに当たり、極めて短期的（せいぜい１０年、２０年程度）な観察により、情勢の潮流を評価する傾向も顕著です。しかしながら、今日の各種社会的現象が可視的状態となるまでには、長い年月にわたる経緯と、無数のプレイヤーが存在していました。そして、それらプレイヤーにはそれぞれの価値観が備わっており、そうした非定量的要素の蓄積の結果が、今日の各種社会現象に連接していることを忘れてはなりません。特に、アジアにおいては、中華という巨大な存在が、近代における自己を取り巻く環境を、どのように主体的に向き合ったかという観点は、極めて重要な要素と言えます。また、こうした中国に対して、アメリカという新興勢力

	が、どのように向き合おうとしてきたかもまた、アジア・太平洋という空間における各種事象を相当規律してきたことは、決定的に重要であります。 　こうした歴史的経緯に対する長期的、公平、多面的な認識の欠落こそが、今日のアジアにおける日本にとっての各種危機的事象に、日本が主体的かつ適切に対処できない主因が潜んでいると思われます。そこで、本授業においては、冷戦史における米中関係を基軸として、そこに日本は、どのように考え行動してきたかを中心に、学生諸氏が考察を発展させることを要求します。その際、歴史的時間経過という縦軸に、アメリカと中国における指導層の理念的思考パターン、つまり、「思想」という横串を通すことにより、近現代におけるアジア情勢をより立体的に捉えることに留意することになります。
授業内容	

回	内容
1	①授業テーマ 　ガイダンス（授業の意義、授業の進行方法、レポートの様式、成績評価の説明）、冷戦の全体像と今日との連接（冷戦の起源と今日への投影を説明） ②授業概要 （ガイダンス）学生は、本授業専用ノートの記載要領、予習・復習の具体的な進め方、レポート作成要領、学生間討議要領及び評価の基準（授業内レポートの内容・提出時期等）を確認する。 （冷戦の全体像と今日との連接）学生は、冷戦の概要と、冷戦後の世界との連接を考察し説明することができる。（Ｅ１・Ｆ１・Ｈ１・Ｈ２・Ｉ１・Ｋ１） ③予習（60分） 　学生は、指定教科書『冷戦史』の「はじめに」と「おわりに」とを読書する。 ③復習（60分） 　学生は、第１回授業で配布するプリントに従って、爾後のレポートのフォーマットを作成する。なお、各学生が作成したフォーマットは、第２回授業時に担当教員へ提出し、指導を受けるものとする。
2	①授業テーマ 　冷戦の起源と初期における危機事象。 ②授業概要 　学生は、冷戦勃発の経緯と、欧米とアジアにおける冷戦との相違を具体的事象を事例として用いて考察し説明できる。（Ｅ１・Ｆ１・Ｈ１・Ｈ２・Ｉ１・Ｋ１） ③予習（120分） 　指定教科書『冷戦史』「第１章　冷戦勃発」を読書し、第Ｉ部関連年表を書き写す。また、読書指定箇所の要約をＡ４版１枚にまとめる。 ④復習（60分） 　本授業専用ノート及び参考書を併用して、指定教科書『冷戦史』「第１章　冷戦勃発」を再読する。
3	①授業テーマ 　第２次世界大戦における敗北から独立回復直後における日本国内の政治状況 ②授業概要 　学生は、占領軍による各種強制的改革と、それらに対する日本政府・社会の向き合い方を考察し説明できる。（Ｅ１・Ｆ１・Ｈ１・Ｈ２・Ｉ１・Ｋ１） ③予習（120分） 　指定教科書『冷戦史』「第２章　国内冷戦の成立」を読書し、要約をＡ４版１枚にまとめる。 ④復習（60分） 　本授業専用ノート及び参考書を併用して、指定教科書『冷戦史』「第２章　国内冷戦の成立」を再読する。
4	①授業テーマ 　米ソ冷戦の変動とアジアにおける抗争激化 ②授業概要 　学生は、1950年代中葉からの約20年間における米ソ冷戦の変動と、アジアにおける各国の武力抗争の本質を考察し説明できる。（Ｅ１・Ｆ１・Ｈ１・Ｈ２・Ｉ１・Ｋ１） ③予習（120分） 　指定教科書『冷戦史』「第３章　対立と協調のうねり」を読書し、第Ⅱ部関連年表を書き写す。また、読書指定箇所の要約をＡ４版１枚にまとめる。 ④復習（60分） 　本授業専用ノート及び参考書を併用して、指定教科書『冷戦史』「第３章　対立と協調のうねり」を再読する。
5	①授業テーマ 　高度経済成長期の日本社会の変容と周辺情勢との関係 ②授業概要 　学生は、高度経済成長に伴う日本の政治構造の変容を、世界的冷戦構造との関係にお

		いて考察し説明できる。（Ｅ１・Ｆ１・Ｈ１・Ｈ２・Ｉ１・Ｋ１） ③予習（120分） 　指定教科書『冷戦史』「第４章　国内冷戦の展開」を読書し、要約をＡ４版１枚にまとめる。 ④復習（60分） 　本授業専用ノート及び参考書を併用して、指定教科書『冷戦史』「第４章　国内冷戦の展開」を再読する。
	6	①授業テーマ 　冷戦末期の世界情勢 ②授業概要 　学生は、冷戦末期の欧米情勢の推移と、冷戦終結の原因を考察し説明できる。（Ｅ１・Ｆ１・Ｈ１・Ｈ２・Ｉ１・Ｋ１） 　なお、担当教員が実際に手がけた北朝鮮工作船事案や湾岸戦争に関する実務的実態を重点として講義します。 ③予習（120分） 　指定教科書『冷戦史』「第５章　米ソ二極構造の浸食と冷戦終結」を読書し、第Ⅲ部関連年表を書き写す。また、読書指定箇所の要約をＡ４版１枚にまとめる。 ④復習（60分） 　本授業専用ノート及び参考書を併用して、指定教科書『冷戦史』「第５章　米ソ二極構造の浸食と冷戦終結」を再読する。
	7	①授業テーマ 　世界冷戦構造の変化と国内政治状況の変化 ②授業概要 　学生は、冷戦末期における安全保障問題をめぐる日本政治体制の変化と、それが今日の国内政治状況といかに連接しているかを考察し説明できる。（Ｅ１・Ｆ１・Ｈ１・Ｈ２・Ｉ１・Ｋ１） 　なお、当該時期以降、突如として日本の一部でわき起こった「にわか国防論」の危うさを担当教員の実務経験によった知見に基づいて、昨今の防衛問題に関する議論や動向の危うさを考えていきます。 ③予習（120分） 　指定教科書『冷戦史』「第６章　国内冷戦の終焉へ」を読書し、要約をＡ４版１枚にまとめる。 ④復習（60分） 　本授業専用ノート及び参考書を併用して、指定教科書『冷戦史』「第６章　国内冷戦の終焉へ」を再読する。
	8	①授業テーマ 　冷戦史に関する学生間討議 ②授業内容 　学生は、３つのグループのいずれかに属し、教員から別に提示されるテーマに関する考察を集団で行い、世界冷戦構造と日本の軽武装政策維持と、世界冷戦構造と中国の国防力増強政策維持との原因を発表説明することができる。また、他グループ学生からの質疑に対する説得力ある合理的な回答ができる。（Ｅ１・Ｆ１・Ｈ１・Ｈ２・Ｉ１・Ｋ１・Ｋ２） ③予習（120分） 　指定されたグループ全成員による提示課題に対する発表資料（パワーポイント及びレジュメ）を作成し、事前に担当教員及び他グループ全学生に配布する。 ④復習（60分） 　発表時における他グループ学生による指摘及び教員によるコメントを参考にして、個人ごとＡ４版１枚で修正レポートを作成し、別途指示される日時までに提出する。
	9	①授業テーマ 　現代中国政治思想（１） ②授業内容 　学生は、現代中国政治の基盤的思想たる毛沢東思想の概要と、そこから導かれた中国の究極的目標を説明することができる。（Ｅ１・Ｆ１・Ｈ１・Ｈ２・Ｉ１・Ｋ１） ③予習（60分） 　第８回次授業で配布されたプリントを読み、その要約をＡ４版１枚にまとめる。 ④復習（60分） 　本授業専用ノート及び参考書を併用して、配布プリントを再読する。
	10	①授業テーマ 　現代中国政治思想（２） ②授業内容 　学生は、建国後における中国の核心的国家建設目標と、米中対立及び中ソ対立の本質を説明できる。（Ｅ１・Ｆ１・Ｈ１・Ｈ２・Ｉ１・Ｋ１）

		③予習（60分） 　参考書及び第８回次授業で配布されたプリントを読み、建国後における中国の核心的国家建設目標と、米中対立及び中ソ対立の本質に関する各学生の見解をＡ４版１枚にまとめる。 ④復習（60分） 　本授業専用ノートを参考に、予習で作成した見解を修正する。
	11	①授業テーマ 　現代米国政治思想（１） ②授業内容 　学生は、１９世紀末以降における米国の対外進出戦略たるマハンの海権思想と、米国のアジア・太平洋政策の概要を説明できる。（Ｅ１・Ｆ１・Ｈ１・Ｈ２・Ｉ１・Ｋ１） ③予習（120分） 　第８回次授業で配布されたプリント及び参考書を読み、マハンの海権思想と２０世紀前半までの米国のアジア・太平洋政策における目的との関係をＡ４版１枚にまとめる。 ④復習（60分） 　本授業専用ノートを参考に、予習で作成した見解を修正する。
	12	①授業テーマ 　現代米国政治思想（２） ②授業内容 　学生は、建国期から第２次世界大戦までの米国のアジア・太平洋政策と、冷戦以降における政策との不変部分と可変部分及び今日的各種現象との関係を説明できる。（Ｅ１・Ｆ１・Ｈ１・Ｈ２・Ｉ１・Ｋ１） ③予習（120分） 　第８回次授業で配布されたプリント及び参考書を読み、米国のアジア・太平洋政策の不変部分は何かをＡ４版１枚にまとめる。 ④復習（60分） 　本授業専用ノートを参考に、予習で作成した見解を修正する。
	13	①授業テーマ 　近代中国革命の究極的理念と中華世界の世界観 ②授業内容 　学生は、近代中華革命の究極的理念と中華世界の普遍的世界観を交えて、今日の中国の発展が目指すものと、台湾問題とを考察し説明できる。（Ｅ１・Ｆ１・Ｈ１・Ｈ２・Ｉ１・Ｋ１） ③予習（120分） 　第１０回次授業で配布するプリント（『中国の海洋進出』第４章）を読み、その要約と読後感をＡ４版２枚にまとめる。 ④復習（60分） 　授業における教員の説明を加味して、第１５回次授業で実施される学生間討議の資料を作成する。
	14	①授業テーマ 　中国の海洋戦略の目的 ②授業内容 　学生は、近代中国革命の究極的理念と昨今の中国海洋政策の目的との関連を考察し説明できる。（Ｅ１・Ｆ１・Ｈ１・Ｈ２・Ｉ１・Ｋ１） 　なお、担当教員が中国人民解放軍軍人を含む多くの各国軍人や国防実務者との学術・実務的接触や意見交換から得られた知見を交えた講義を実施します。 ③予習（60分） 　第１０回次授業で配布するプリント（『中国の海洋進出』第４章）を読み、第１５回次授業で実施される学生間討議の資料を作成する。 ④復習（60分） 　授業における教員の説明を加味して、第１５回次授業で実施される学生間討議の資料を完成させる。
	15	①授業テーマ 　近代中国革命と中国の海洋政策との関係 ②授業内容 　学生は、３つのグループのいずれかに属し、教員から別に提示されるテーマに関する考察を集団で行い、中国と米国との今後の関係予測及び日本の示すべき姿勢を発表説明することができる。また、他グループ学生からの質疑に対する説得力ある合理的な回答ができる。（Ｅ１・Ｆ１・Ｈ１・Ｈ２・Ｉ１・Ｋ１・Ｋ２） 　なお、担当教員が中国人民解放軍軍人を含む多くの各国軍人や国防実務者との学術・実務的接触や意見交換から得られた知見を交えた講義を実施します。 ③予習（120分） 　指定されたグループ全成員による提示課題に対する発表資料（パワーポイント及びレ

	ジュメ）を作成し、事前に担当教員及び他グループ全学生に配布する。 ④復習（60分） 　発表時における他グループ学生による指摘及び教員によるコメントを参考にして、個人ごとＡ４版１枚で修正レポートを作成し、別途指示される日時までに提出する。
関連科目	ゼミナールⅠ（RMGT4601）、ゼミナールⅡ（RMGT4602）、ゼミナールⅢ（RMGT4603）、ゼミナールⅣ（RMGT4604）
教科書	■配布プリント （１）『「戦略」の強化書』第４章及び第７章の抜粋　＊第８回次授業で配布する。 （２）『中国の海洋進出』第４章の抜粋　＊第10回次授業で配布する。 ■市販教科書 　松岡完・広瀬佳一・竹中佳彦『冷戦史』（同文館出版、2003年）ISBN:978-4-49546-331-1（2,900円（税抜）） 　石黒圭『この1冊できちんと書ける！　論文・レポートの基本』（日本実業出版社、2012年）ISBN:978-4-53404927-8（1,400円（税抜）） 　以下の他、授業中に逐次、教員から別途案内します。
参考書・参考ＵＲＬ	（１）未里周平『セオドア・ルーズベルトの生涯と日本』丸善プラネット、2013年、ISBN：978-4-86345-173-5（定価：1,600円（税別）） （２）岡本隆司『中国の論理』中央公論社、2016年、ISBN:978-4-12102-392-6（定価：820円（税別）） （３）ジョージ・Ｆ・ケナン『アメリカ外交５０年』岩波書店、2000年、ISBN：4-00-600030-8（定価：　円（税別）） （４）アーネスト・メイ『歴史の教訓』岩波書店、2004年、ISBN:4-00-600120-7（定価：　円（税別）） （５）佐藤望『アカデミック・スキルズ』慶應義塾大学出版会、2006年、ISBN:978-4-7664-1960-3（定価：1,000円（税別）） （６）礒崎陽輔『分かりやすい公用文の書き方　改訂版（増補）』ぎょうせい、2018年、ISBN:978-4-324-10525-2（定価：2,000円（税別））
連絡先・オフィスアワー	■連絡先　開講時に告知します。 ■オフィスアワー　木曜日３限。それ以外の時間については、メール等で事前にアポイントをとることにより研究室等で対応します。
研究比率	■危機管理領域との対応 　災害マネジメント30%：パブリックセキュリティ30%：グローバルセキュリティ40%：情報セキュリティ0% ■危機管理学と法学とのバランス 　危機管理学90%：法学10%

戻る

Copyright (c) 2016 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.